

中部ブロック研修会を終えて

去る8月21日（土）、「静岡県男女共同参画センターあざれあ」で、本学会中部ブロック第3回研修会（静岡県支部第2回研究大会を兼ねる）を開催しました。

講師は児童精神科医門眞一郎先生。演題は「自閉症スペクトラムと問題行動」でした。

参加者は62人。午前・午後合わせて5時間の長丁場でしたが、皆さん最後まで熱心に門先生の具体的で説得力のあるお話しに耳を傾けていました。



*講演の内容をごく大掴みに紹介します。

自閉症スペクトラムの人たちは、音声言語は苦手ですが目で理解するのは得手のようです。そのため彼らへの支援には視覚とルーチンによる構造化が必要です。

また、コミュニケーションの潤滑油ともいえるソーシャル・スキルを身につける場合にも、絵や図、写真などを使って視覚に訴えることが大切です。

ソーシャル・スキルを教える視覚的技法には、ソーシャル・ストーリーズ、絵による認知リハーサル、コミック会話、ソーシャルスキルアルバム、パワーカード等があります。

レジュメは

警告！

自閉症スペクトラムの人を、構造が明確化されておらずコミュニケーションが成立しない環境に置くことは、虐待に他ならない。視覚的支援をしないことはネグレクトに他ならない。

でむすばれています。

「梶原理事長より」

充実した1日でした。関係するビデオ視聴から100コマ以上のプロジェクターによる理論と具体的な対応の解説にも眠くならず聴講出来たという反省がありました。日程が講師にも受講者にもややきついかなど思っていただけにホッとしています。

自閉症スペクトラムは教育現場や保護者にもまだ十分には理解されておらず実情に困惑し、その適切な対応を手探りしつつ関わりを持っています。

発達の遅れではなく偏りにどう対応するか、特性をどう理解しどう伸ばすか、関わりには時間ときめ細かな手立てが要求されます。講座の中で目を開かせていただいたことも関わりのヒントになったこともあったのではないかと考えます。皆さんに感謝申し上げます。